

箱根古道を歩く～関所跡から三島へ～

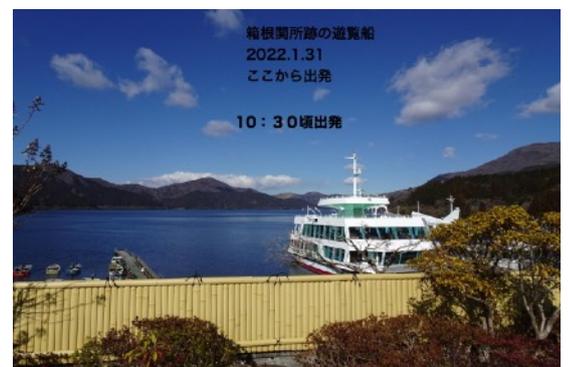
●はじめに

2021.11月にFさんの案内で旧中山道を訪ねた。とても良い思い出と歴史、文化の勉強になりました。退職したら、旧東海道を日本橋から京都の三条大橋まで折りたたみ自転車で巡ってみたい。そこで、自転車では行けそうもない箱根超えは徒歩で行くことにした。

今から15年ほど前、2007年2月に箱根湯本駅から芦ノ湖の関所跡まで旧東海道の石畳の山道を登った。今度は下り、関所跡から三島まで歩きたい。天気をみながら2022.1/31に行くことにした。

●ざっと工程はこうだ

- 0843 JR藤沢駅発
- 0935 JR小田原駅からバスに乗る
- 1020 箱根関所跡着、トイレ休憩
- 1030 出発、箱根峠経由、山中城跡、三嶋大社経由
- 1430 JR三島駅到着 約18km、高低差830m



箱根関所跡から出発

●関所跡から接待茶屋まで

関所跡から箱根峠まではゆるい上り坂の国道のアスファルト舗装を登る。途中、シニアのおじさん70歳ぐらいの1人旅を追い抜く。彼も三島まで降りるのかな？箱根峠まで来たところで、ちょっと道に不安が残った。ずっと国道を下っていいのか？ひょっとして、古道へ入る脇道を見逃したか？3分ほど戻ってみるが、脇道はない。あのおじさんも見えない。どこへ行った？再度、スマホ地図を出し、現在地を確認する。やっぱり、峠まではこの道しか無い、また戻る。

箱根峠の右ワキに古道らしきがある。ここか？ 近寄ってみる。確かにここから古道が始まる。しかし令和元年の台風19号の被害で通行止めだった。もう3年も前の被害が治っていない。しょうがないからアルファルトの国道1号線を下る。11:20に接待茶屋の旧道入り口に到着した。さ、ここからが登山道、石畳が始まる。早く国道1号の車の喧騒から逃れたいし富士山も見たい。

<接待茶屋の由来>

文政七年（1824）、江戸の豪商加勢屋與兵衛（かせや・よへえ）は箱根の西坂と東坂に1カ所ずつ接待茶屋を設置しました。その後、中山道の碓氷（うすい）峠と和田峠にも設置し、合計四カ所となります。與兵衛は二千両の基金を設け、その貸付け利子で接待茶屋を運営しました。



接待茶屋跡から旧道へ入る

●接待茶屋から山中城跡まで

ちょっと歩くと兜石に出会う。確かに三角形の兜の形。新林公園のトリカブト（鳥兜）のようだ。5分ほど歩くと笹藪の中に明治天皇のご休憩の石がある。明治天皇が、その前は地方の大名もここを通ったのだろう。200年続いた江戸幕府から明治へ移り、躍起になって天皇の権威を高める必要があった。当時の庶民は中央の権力が幕府から天皇に移った事はニュースになっていたのか？または、当時から、誰が総理になっても同じと思っていたのか？ま、国政選挙がない時代は、「オラ、関係ない」のだろう。



旧道の石畳を下る

石畳も古いもの、新しく作り直したものが混在している。古い石畳は、配置が不揃いで歩きづらい。江戸時代にこの山奥までよく石を運んだものだ。こんな山の上まで人馬だけで運んだ。凸凹の石の上を馬が歩くのも大変なことだ。

しばらく順調に下り、中間の目的地の山中城址に到着した。ここで買ったパンを2個とパックの野菜ジュースを飲む。パンはピザパンとやや甘いチョコレートパン。普段は1つだけで十分だが、今日は流石にお腹が空いたので、予備に買っておいたお菓子パンもペロリと食べた。もう、町中だから非常食として残す必要もない。ここからはアスファルト舗装が多くなる。三島の郊外の農家が多い生活圏に入った。山中城址跡はかなり大きな歴史公園になっている。今日は見学する余裕は無いので先を急ぐ。

●山道を抜けて三島郊外（坂地区）まで

アスファルトの国道を時々横切りながら、時に舗装道路を歩きながら順調に下ると眼下に駿河湾と三島の町並みが見えてきた。右手の山は薩埵峠、左手の山は函南から伊豆の山

の入り口だろう。穏やかで温かい静岡の南斜面。庭木に夏みかん、金柑が多く、黄色の実がたわわになっている。

東名高速道路を横切り、右手に有名な三島のスカイウォークの吊橋の橋頭が見えている。その奥には富士山の広大な裾野と山がある。TVで見た宣伝では吊橋の歩道がガラス張りで、下が透けてみえるレジャーランドらしい。見てみたいが先を急ぐのでスタスタと通り抜ける。



駿河湾と三島の町並みを望む

ここまで来ると、箱根古道も完全に舗装道路になった。けっこう大きな寺、松雲寺前を通過する。明治天皇が休んだ記念碑が立派に建っている。ここらへんは古い家が多い。懐かしい昭和の田舎の町並みである。農家が多く、至る所で野菜の集荷をしている。三島函南農協坂支店の前を通る。店舗の半分は肥料や農薬を積み上げてある。農協銀行の支店でもある。

私の静岡の両親は農協銀行に預金していた。実家の隣が静岡市農業協同組合八幡支店銀行であった。両親が老人介護施設に入居し、私が貯金通帳を預かった。基本的に静岡に行って入手金等をする。ある時、この通帳は神奈川県🐟の農協銀行でも有効なのか？調べた。結果は駄目。静岡市農協銀行は熱海市まで、神奈川県は別組織と言われた。え！全国にある農協銀行は県ごと？これは盲点である。もっとも発足が地元の農業支援の目的だから、県をまたいで都市銀行のように使えるものではない。両親が死去し、全部解約した。道中の函南の坂支店の窓に見覚えがある古いポスターや貯金魚の赤い金魚のシールが貼ってある。しばし15年前に遠距離介護していたころを思い出した。

●坂地区から三嶋大社まで

箱根峠からは見えなかった富士山も、三島方面へ下ると、右手に富士山の広大な裾野がみえてきた。8合目からは雲で覆われて、やや残念。ま、静岡、神奈川の海沿いに住んでいると富士山も珍しくもない。久しぶりに見たのが広大な裾野である。



富士山の裾野は広い

子供の頃、裾野の朝霧高原に遠足に行ったことを思い出す。また、18歳の高専時代、友達の父が富士駐屯地の自衛官であった。その縁で、毎年恒

例の陸上自衛隊の 富士学校記念行事・総合火力演習を見学した。その時に初めて戦車に乗り、中が白く塗装して、明るい室内である事を知った。男の子が大好きな兵器の展示と実弾演習を見て興奮した。

あと4km強、1時間ちょっとで三島駅に着く。富士見ヶ丘バス停から松並木が残っている。ここは車が通る道路と松並木と石畳（観光用に再現した新しい道）を歩く。やっぱり松並木があると旧東海道の雰囲気がある。途中にトチノキの一里塚跡を通る。ちょっとした空き地で、シニアのご婦人が体操している。



保存松並木に入る

目の間にデッカイ富士山がある。毎日、こんな特等席で体操している。さぞかし富士浅間神社のご利益があることだろう。

松並木を超えて、最後の石畳？いや、丸石を並べた愛宕坂に到着した。不規則な凹凸の石畳を歩き、もう足がガタガタ、ずっと下りなので足の親指の靴下が破れ懐中電灯状態。つま先が痛い。後ろ向きで急な坂を下る。箱根旧街道入り口の看板が見えてきた。三島から箱根に向かう人はここから旧街道が始まる。ここまでくるともう石畳は無く、ダラダラとしたゆるい下りが三嶋大社まで続いている。

やっと三嶋大社に到着した。長かった。お参りをし、三島駅に向かう。町中に清流が流れている。ここ三島は湧き水が豊富で駅前の公園からコンコンと清水が湧き市民の憩いの公園である。またカモ、サギの鳥も沢山いる。15分ほどかけてJR三島駅に到着した。三島駅から伊豆急下田行き電車のラッピングに北条義時のイラストがあった。さすが、伊豆から小田原は北条家の地盤である。



三島の町中に流れる伏流水

●歩いた道を振り返る

今日歩いた旧道の中の割合を感覚で話すと以下の配分でした。土の道が2割、石畳2割、アスファルト6割。アスファルト舗装が多いのはしょうがない、箱根山から降りて、三島の郊外から駅までは舗装道路。ここは農家と家屋がある生活圏の道路です。アスファルト舗装は歩きやすいが風情は全く無い。しかし、石畳の割合が5割なら、その歩きづら

さから完全に音を上げていた。昔の人は舗装道路を知らないから石畳でも文句は無かった。

山の中の石畳、苔むした岩、笹藪、杉林の中に行くと、まるで江戸時代に旅をしている気分になった。全国の大名、明治天皇もこの道を通って京都と江戸の間を往復していた。日本史の中を歩いているようだ。 ありがとうございます。 おわり

●今月の風景

大河ドラマ『鎌倉殿の十三人』が好評です。武士魂、武士道が生まれたのも鎌倉時代でした。室町時代には、小笠原流が武家文化精神の基礎となりました。ここ藤沢も大河ドラマに便乗して藤沢市役所の一角に北条時政のノボリがありました。また、サイクリング(往復65km)で行った相模原市博物館には「和田義盛と横山党」のコーナーがありました。この博物館の前がJAXA (宇宙航空開発機構) です。十三人の縁の地を調べるのも楽しい。神奈川県内なら自転車で行ける距離です。ゆっくりと楽しみたい。退職後はたっぷり時間がある。



3/9 相模原市博物館にて



3/17 藤沢市役所にて